

国際会合等の活用と科学技術外交戦略

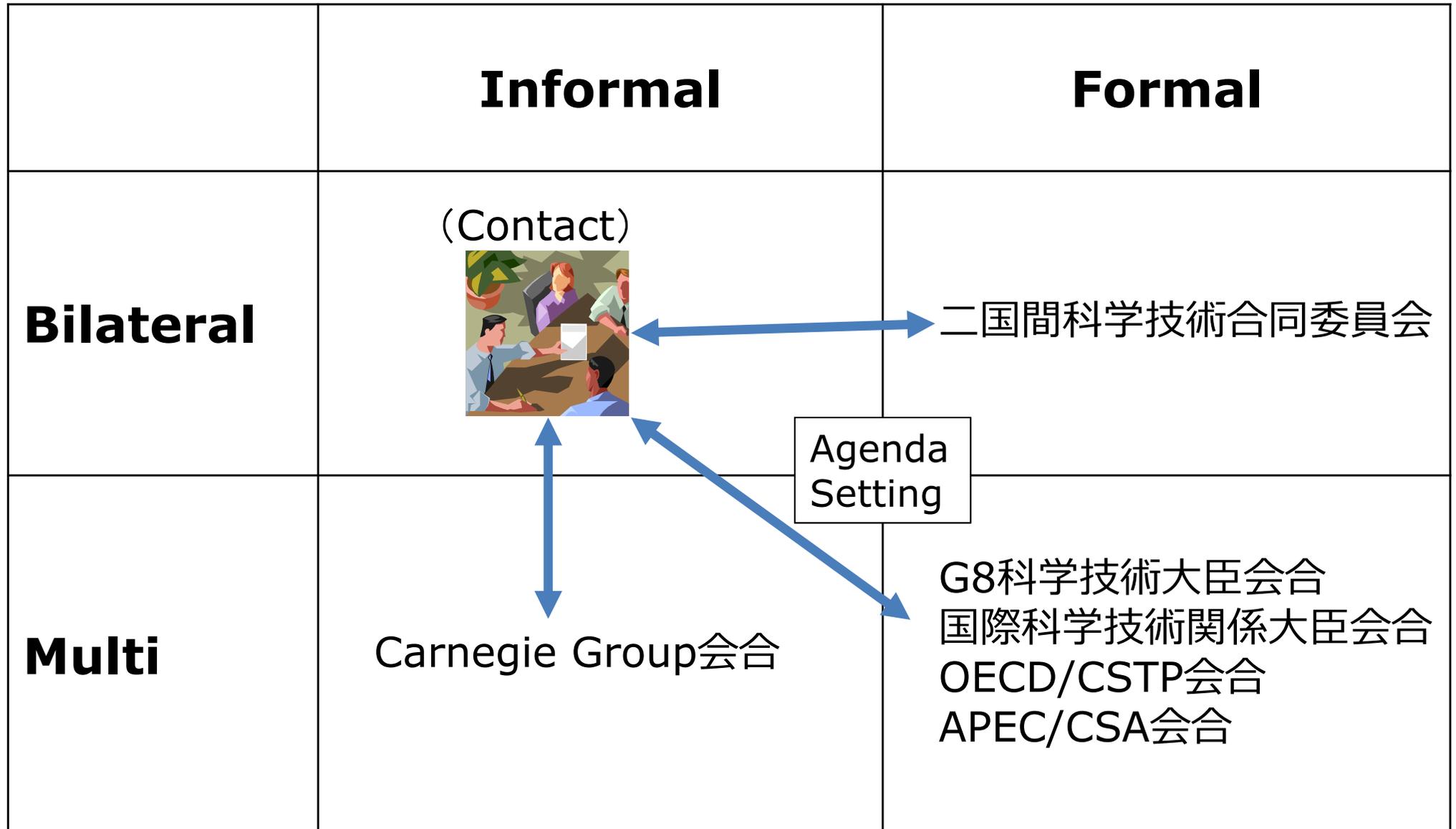
原 山 優 子

総合科学技術・イノベーション会議議員

2014年12月18日



国際的会合等における相関図

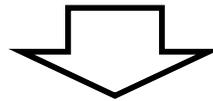


科学技術外交戦略

Agenda Setting と我が国のプレゼンス効果

■ 国際会合等の議論が世界の潮流へ

(例) 人口動態の変化への対処、大規模研究インフラ、オープンデータ、オープンアクセス、エネルギー安全保障、認知症、薬剤耐性など・・・



◆ 国際機関の活用

- OECD/CSTP会合・GSF等

◆ 国際会合等の活用

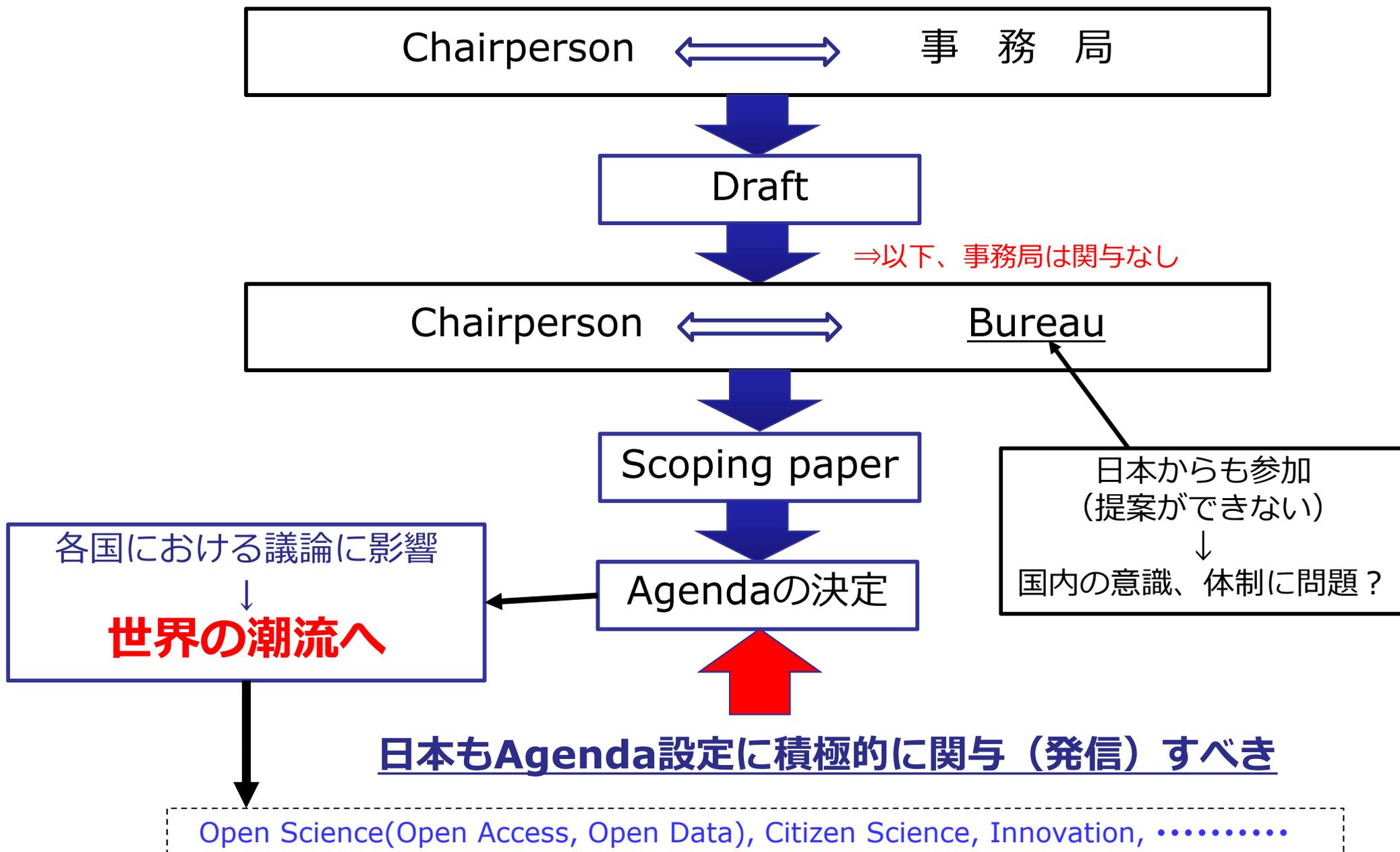
- G8科学技術大臣会合
- 国際科学技術関係大臣会合
- カーネギーグループ会合
- 二国間科学技術協力合同委員会



世界への発信と共有・共存へ

国際機関の活用

OECDにおけるAgendaの設定（CSTP会合）



日本もAgenda設定に積極的に関与（発信）すべき

Open Science(Open Access, Open Data), Citizen Science, Innovation, ……

国際会合等の活用

Formal : G8科学技術大臣会合(2013年英国の例)

Agenda設定

1. アカデミーからの議題提案

The Royal Society → 各国政府窓口 (アカデミー窓口)

- ① Global Research Infrastructure
- ② Open data
- ③ Open access

2. 英国政府 (BIS) からの提案 → 各国大臣宛

議題の追加 ④ Global challenge(薬剤耐性) の追加 (英国)
⑤ 認知症についてイタリアから会議中に提案

世界への影響

- Open data、Open accessに関する議論の加速 → 共同声明で採択
- 認知症サミットの開催

2016年は日本がサミット議長国

Informal : カーネギーグループ会合 (G8, EU, + 5)

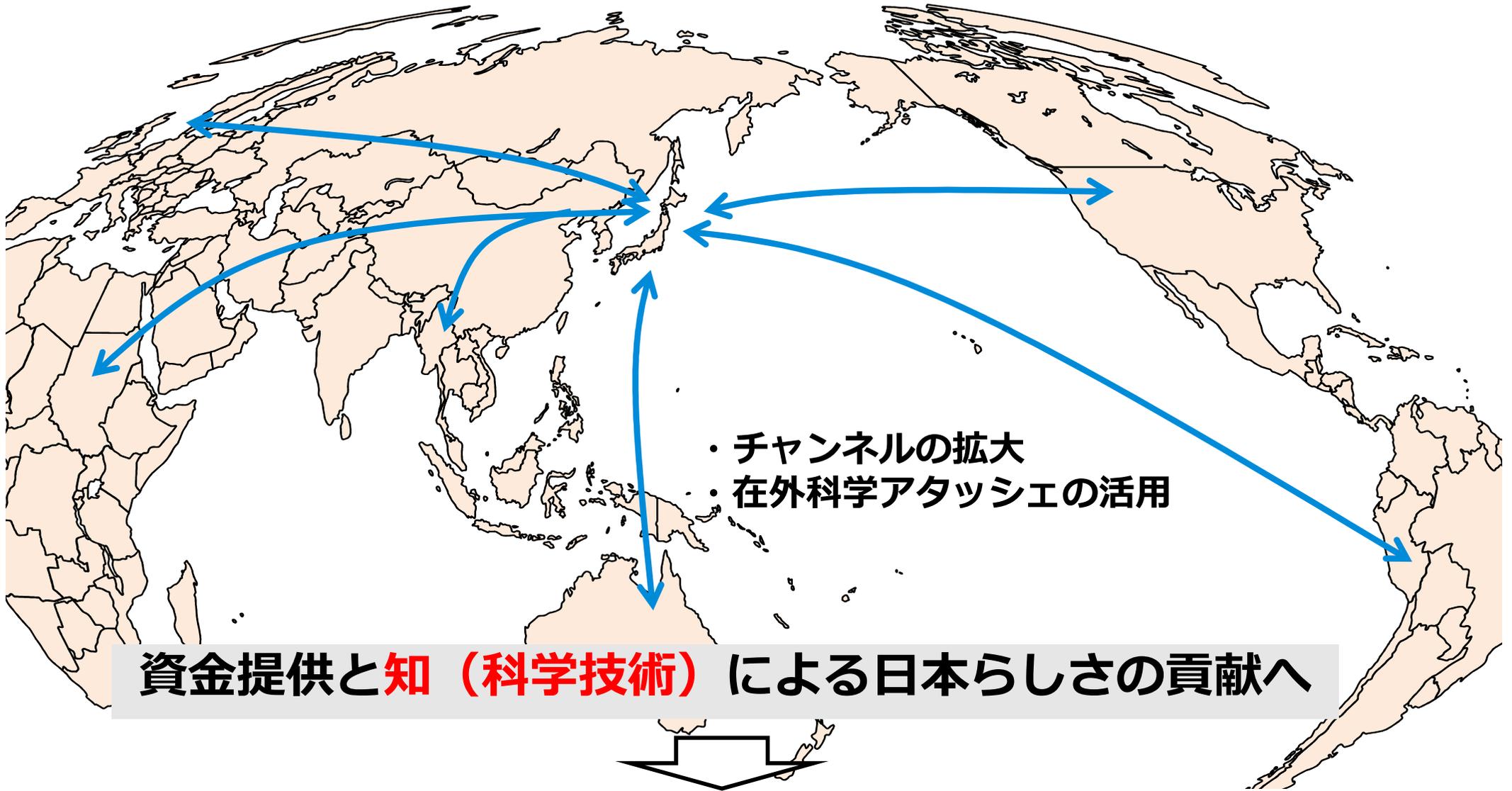
1991年、主要国の科学技術担当閣僚および科学技術顧問等の交換の場 (非公式会合) として発足。
→ 従来の予想を超えそうな事象を先行的に共有して議論

参加者 : シニアな科学者であって、首脳の顧問などの公的な立場を有する者 (顧問などの制度のない場合は科学技術担当閣僚等)
※日本からは、第1回会合から原則としてCSTI (前進のCSTPを含む) の常勤議員が出席

世界への架け橋

Negotiation

～知の共有と平和共存へ～



資金提供と知（科学技術）による日本らしさの貢献へ

これからこういった科学技術のカードを使っていくのか！